

に出来ないそうもないので、ひどい屈辱を味わわされるだろう。[3]、そんなきっかけをつくらないことだ。それには、だれにでもさんをつけて敵をつくらないようにすること、敵にしないばかりか、一步すすんで親しみをこめ、仲間に引き込んでしまうこと、それがさんの効用なのだ。

こうして日本の場合は、なんと神に対してもその戦術が応用されるのである。「神さん」というのは、
[] という弱者の論理をさらに一步すすめて、神までも仲間に取り込んでしまおうとする日本人独特の（無手勝流）なのだと思は思う。

（森本哲郎 『日本語表と裏』）

(注) 1 敬称―立場が上の人を呼ぶ語。

2 呼称―物事につけられる名前。

3 間歌的―物事が起こったりやんだりすること。

4 杓子定規―一つの規準ですべてを決めるやり方。

5 逸話―その人についての知られていない興味深い話。

6 気炎をあげていた―威勢のいいことを言っていた。

問一 [1] [3] に入れるのにふさわしいものを、次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。同じものは一度しか使えません。

- ア だから イ ところで ウ しかし エ つまり オ なぜなら

問二 [] ※ に入れるのにふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア さわらぬ神にたたりなし イ 神のみぞ知る ウ 神も仏もない
- エ すてる神あればひろう神あり オ 正直の頭に神宿る

問三 [] 部①「さんとさまのへだたりは大きくなる」とは、どういうことですか。説明しなさい。

問四 [] 部②「その様子を見て私はじつに不思議だった」とありますが、なぜですか。説明しなさい。

問五 [] 部③「ト伝のこうしたやり方は、じつに卑怯な流儀ともいえまいか」とありますが、なぜですか。答えなさい。

問六 [] 部④「進んで火の粉をあびる」とは、どういう意味ですか。次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 相手と戦う イ 議論をする ウ 熱い思いをする
- エ 自分を犠牲にする オ もめ事を作る

問七 [] 部⑤「弱者の知恵」とは、どんなことですか。説明しなさい。